

事後評価報告書(日本－スウェーデン研究交流)

1. 研究課題名:「単一細胞における水・イオン動態の同時観測を可能とする技術開発」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:慶應義塾大学医学部薬理学教室 教授 安井 正人

2-2. 相手側研究代表者:カロリンスカ研究所医科学生物物理学部門 准教授 Per Uhlen

3. 総合評価: (B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

基本構想が極めて明白でありかつ期待のもてるものであった。また、計画に沿って検討が実行されたことも報告書から理解できる。ただ、もう少し作業仮説の有用性を示唆できるような段階まで踏み込めるような計画を立案し、実行してほしかったというのが率直な感想である。交流期間内に発表された共同成果による論文と学会発表がなく、報告書からだけでは、スウェーデン側の考案が成果のためにどれだけ本質的な貢献があったのかが明らかでないことは残念であった。

(2)交流成果の評価について

相互に技術を補完しあう構想になっており、また相手方の技術が相互に導出入できたことは今後の展開のために良かったと考える。研究期間終了後も引き続き相互交流が続いていることは好ましいことである。

惜しむらくは、本研究期間中に若手研究者の派遣を実現してほしかったと強く感じる。参画した若手研究者の持続的な交流の実現を促す今後の活動を期待したい。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究課題の基本コンセプトはなお期待のもてるものである。基礎研究的性格が強いが、創薬研究などに生かせる可能性も大いにあるので、製薬研究グループなどとのより積極的な交流も期待する。